

超党派国会議員 辺野古の海視察

自然保護協と意見交換

【名護】超党派の国会議員でつくる沖縄等米軍基地問題議員懇談会(会長・近藤昭一衆院議員)のメンバーは24日、名護市の瀬高公民館で日本自然保護協会のメンバーらと意見交換を行った。

た。また、県の埋め立て承認撤回で工事が中止している辺野古沖とフロートが撤去された大浦湾も視察した。

参加した議員は藤田幸久参院議員、原口一博衆院議員、初鹿明博衆院議員、山内康一衆院議員の4人。同協会から、護岸周辺の海草の分布状況の変化や長島の鍾乳石などの調査結果を聞いた。

議員からは「辺野古の海の素晴らしさが、全国に発信されていない」「環境監視等委員会の役割は何か」などの声があつた。



資料を指さしながら質問する藤田幸久参院議員(手前右から2人目)ら。24日、名護市・瀬高公民館